

表面（三月）

裏面（四月）



具注暦木簡復元図

（表面） 矢印を中心に折り返してみてください

（裏面）

三月大	一日癸丑開	九坎天倉	重	廿九日辛巳除	重	往亡
	二日甲寅閉	婦忌		廿八日庚辰建		
	三日乙卯建	厭対		廿七日己卯閉		
	四日丙辰除			廿六日戊寅開		
	五日丁巳滿	重		廿五日丁丑収		血忌厭対
	六日戊午平			廿四日丙子成		婦忌天倉
	七日己未定	血忌		廿三日乙亥危		重
	八日庚申執	血忌		廿二日甲戌破		九坎
	九日辛酉破	上玄岡虚厭		廿一日癸酉執		厭
	十日壬戌破	三月節急盈九坎		十九日辛未平		重
	十一日癸亥危	重馬牛出掠		十八日庚午滿		重
	十二日甲子成	絶紀婦忌		十七日己巳除		重
	十三日乙丑収	天間日		十六日戊辰建		重
	十四日丙寅開	血忌		十五日丁卯閉		厭対
	十五日丁卯閉	血忌		十四日丙寅開		厭対
	十六日戊辰建			十三日乙丑収		天間日
	十七日己巳除			十二日甲子成		絶紀婦忌
	十八日庚午滿			十一日癸亥危		重馬牛出掠
	十九日辛未平			十日壬戌破		三月節急盈九坎
	廿日壬申定			九日辛酉破		上玄岡虚厭
	廿一日癸酉執			八日庚申執		血忌
	廿二日甲戌破			七日己未定		血忌
	廿三日乙亥危			六日戊午平		
	廿四日丙子成			五日丁巳滿		重
	廿五日丁丑収			四日丙辰除		
	廿六日戊寅開			三日乙卯建		厭対
	廿七日己卯閉			二日甲寅閉		婦忌
	廿八日庚辰建			一日癸丑開		九坎天倉
	廿九日辛巳除					
	卅日壬午滿					

発見!! 持続3年の具注暦木簡（飛鳥藤原第122次）

石神遺跡から出土したこの円盤状の木簡は、具注暦と呼ばれたカレンダーの一部です。干支の下には「建、除、満、平、定、執、破、危、成、収、開、閉」の順にめぐる「十二直」が規則正しく並びます。その下には、「九坎」（万事に凶）、「婦忌」（この日の婦宅は凶）、「血忌」（この日の出血は凶）、「天倉」（倉開きに吉）など、その日の吉凶が記されています。「上玄（弦）」（上弦の月）、「望」（満月）といった、月の満ち欠けも書かれています。以上のような情報を読み解くことによって、表面が持続3年（689）3月8日～14日、裏面が同年4月13日～19日の暦

であることがわかりました。日本最古の現存するカレンダーです。「元嘉暦」という、中国から百済を経由して日本に伝えられた最初の暦です。

周囲が丸く削られているのは、廃棄後に木器として転用されたからです。もともとは、表面に3月、裏面に4月、それぞれ1ヵ月分の暦日を記した長方形の板であったと推定されます（復元図参照）。

具注暦は天皇の名のもと政府が作る正式の暦で、官司や諸国にはその写しが頒布されました。本来は紙に書かれた巻物ですが、同時に多数の役人たちがみられるよう、板材に書き写すという工夫をしたのでしょう。（飛鳥藤原宮跡発掘調査部 市 大樹）